

1 Happiness!
2 ~笑顔がつくる^{まち}の未来~
3

4 公益社団法人 仙台青年会議所
5 2024年度 理事長予定者
6 大高 成美
7

8 【はじめに】

9 まちは、そこに住む人の意識以上には良くなりません。まちを知り、まちの未来を考え、
10 そして、まちを愛する人が増えることで、必ず、より良いまちが創造できると信じています。

11 仙台青年会議所（以下、仙台JC）は、創立以来72年に亘り、明るい豊かな社会の実現
12 に向けて、^{まち}の未来を切り拓く青年リーダーが集い、地域に根差した運動を展開してまい
13 りました。私たちは「LOM中期ビジョン2026」を行動指針とし、「市民」「まち」「組
14 織」の3つの柱のもと、「しあわせを共感できる^{まち}の実現」を目指し、どのような状況下
15 においても活動を続けてきましたが、近年の生活様式や物事に対する意識の変化は、例外な
16 く私たちの組織にも影響を与え、連綿と受け継がれてきた伝統や想いの継承が限定的とな
17 っています。創立73年目を迎えるにあたり、改めて創始の想いに立ち返り、メンバー同士
18 のこころの繋がりやJC活動に向き合う姿勢を洗練させるとともに、^{まち}の未来を真剣に
19 考え、愛する^{まち}のために笑顔で行動するメンバーが集う組織に進化する必要があると私
20 は考えます。

21 笑顔は世界の共通言語。笑顔は自分自身だけではなく、周りにいる人たちにも伝播され、
22 人のこころを明るくしあわせにし、柔和で好意的にさせてくれる力があります。いつでも、
23 しあわせは希望であり、しあわせを求めて生きることが人生の目的とも言われます。私たち
24 を起点とした笑顔の伝播から、^{まち}にしあわせという共感の輪を拡げていくことで、私たち
25 の活動はより前向きなものになっていくと確信しています。

26 今こそ、私たちは本当のしあわせに向けて行動を起こす時です。JCは、「発展と成長の
27 機会を提供する」ことを使命としており、メンバー一人ひとりの意識と行動次第で自己変革
28 を遂げることのできるステージが用意されています。変わろうとし成長する中で得られた
29 力は未来を切り拓く原動力となり、^{まち}の発展に繋がります。愛する^{まち}と自身のために、
30 大切な人生の時間をかけて行うJC活動を前向きで有意義なものにし、自己変革を起こす
31 必要があります。

32 私たちには、社業だけでは得ることのできないJCのスケールメリットを活かした機会
33 を通して、これからの社会がどうあるべきかを考え、未来を創っていく責任があると考えま
34 す。変化が激しく先の見通せない時代だからこそ、柔軟な思考で変化に対応し、前向きな行
35 動から笑顔の輪を拡げることで、まちを明るく照らし続ける笑顔溢れる市民と共に、しあわ
36 せな^{まち}の未来を創造します。

37

38 【溢れる笑顔が未来を照らす、^ま仙^ち台のシンボル】

39 夏のシンボルとして市民に愛されてきた仙台七夕花火祭は本年度で55回目の開催を迎え
40 ます。コロナ禍においても、開催場所や開催方法を変更し試行錯誤しながら^ま仙^ち台の未来を明
41 るく照らし、次代に希望を繋ぐ事業として継続してまいりました。一方で、近年は、西公園
42 一帯をはじめとする中心部の再開発により、打ち上げ場所及び観覧場所の継続的な確保が
43 困難になるとともに、社会情勢の変化による物価高騰、雑踏事故抑止に求められる厳重な警
44 備計画及び安全対策、肥大化する予算に対する資金課題等が山積し、継続的な開催に向けた
45 抜本的な改革を検討するべき岐路に立たされています。

46 より一層魅力溢れる仙台七夕花火祭を次代へ繋いでいくためには、時代の変化や今後の
47 都市開発にも適応する新たな開催方式を見出し、時代に即した適正化を図る中で、これまで
48 以上に安心・安全な事業基盤を確立する必要があります。

49 本年は、これからも市民から愛され続ける仙台七夕花火祭の実現に向けて、関係各所との
50 連携を深めるとともに、市民が能動的に参画する機会を構築し、市民の笑顔と共に組織一丸
51 となって仙台七夕花火祭の新しい歴史を切り拓く一步を踏み出します。また、今まで以上に
52 主催者に近い立場として関係各所との連携構築及び外部団体を設立することで、資金面や
53 安全面の確保等、仙台七夕花火祭の開催を持続可能とする基盤を確立するとともに、魅力溢
54 れる仙台七夕花火祭を次代へ承継し、^ま仙^ち台の未来を創る笑顔を広げ、しあわせを共感できる
55 仙台を実現します。

56

57 【世界に誇れる持続可能な^ま仙^ち台の創造】

58 新型コロナウイルス感染症や気候変動、ロシアのウクライナ侵攻による影響により、SD
59 G s の進捗が遅れているとして国連より警鐘が鳴らされ、取り組みの加速や国際的な協調
60 を約束する政治宣言がなされています。

61 仙台市は、SDG s へ密接に関連している「仙台防災枠組2015-2030」の採択地
62 であり、世界から注目される地域です。仙台JCは、SDG s の推進に取り組む中で、仙台
63 市のステークホルダーとして地域や市民、企業等と連携し「世界に誇る「防災環境都市・仙
64 台」」（※1）の確立に向けて、世界にインパクトを与えるSDG s を推進することが求めら
65 れています。

66 私たちは、東日本大震災の経験と教訓から醸成した災害文化の発信を基軸に、JCの独自
67 性とスケールメリットを活かしたグローバルな視点から、国内外の多様なステークホルダ
68 ーとの連携により、仙台発のSDG s 推進モデルを確立し、国内外へ伝播する責務がありま
69 す。本年度3年目を迎える「SENDAI SDG s W e e k 2024」では、SDG s
70 の基本理念である「誰一人取り残さない世界」の実現を目指し、関係各所との連携や、地域
71 協働のもと、地域・社会の模範となるモデル都市としてSDG s の推進を牽引する必要があ
72 ります。

73 本年は、「SENDAI SDGs Week 2024」を通し、多様化する社会におけ
74 る地域課題の解決に向けて、多様な主体の有機的連携を促すとともに、共にSDGs推進に
75 取り組むフィールドを創出する中で、世界に模範とされる推進モデルを確立し、グローバリ
76 ズムを推進する国際都市の発展に寄与することで、笑顔が溢れ世界に誇れる、しあわせを共
77 感できる仙台を実現します。

78

79 【子どもたちの笑顔が咲く、明るい未来へ】

80 世界的に、人、物、情報が国境を越えて行き交うグローバル化が急速に進み、言語や文化
81 的な背景、価値観が異なる人々と交流の機会が急増しています。国際都市を目指す仙台市に
82 おいて、次代を担う子どもたちが世界中の人々と共生していくために、外国語やノンバーバ
83 ルでのコミュニケーションスキル、多様な文化・価値観・個性を理解し尊重する姿勢や、グ
84 ローバルな視点で課題解決に向けて取り組んでいく力を身に付ける必要性が高まっていま
85 す。

86 子どもたちの持つ思いやり溢れる豊かな精神性で、それぞれの風土や伝統、文化や宗教な
87 どの多様な価値観を受け止め、世界中の子どもたちが共通の未来を思い描くことのできる
88 関係性を築くことで、次代を担う子どもたちの笑顔溢れる明るい未来が切り拓かれます。今
89 後も目まぐるしく変化していく社会を見据え、子どもたちが将来、グローバル社会をたくま
90 しく生きていくために、私たちは、世界中の人々と手を携えることができる環境を構築し、
91 次代のリーダーを育成することで、^{まち}仙台の国際化実現に向けてのさらなる一歩を踏み出さ
92 なければなりません。

93 本年は、仙台JCの有するネットワークを基盤に、グローバルな視点から、国際都市仙台
94 の未来を切り拓く子どもたちが、柔軟な発想と個性を活かした持続可能な環境について学
95 ぶ機会を創出し、多様性を寛容に受け止め自らが率先してグローバル社会を切り拓く当事
96 者意識を育むとともに、様々な国の地域課題の解決に向けて関心を持つ能動的な子どもた
97 ちと相互理解を深めることで、世界中に咲く子どもたちの笑顔がしあわせの種を撒き、子
98 どもたちの明るい未来に向けた、しあわせを共感できる仙台を実現します。

99

100 【誰もが憧れる、輝く組織へ】

101 JCの魅力の1つは、社会における立場に関係なく、誰もが挑戦し成長できることである
102 と考えます。仙台JCは、25歳から40歳までの限りある時間の中で、^{まち}仙台のために活動
103 する組織であり、私たちが持続的に活動を展開していくためには、同じ志を持つ仲間が必要
104 不可欠です。しかし、私たちが活動する東北地区においては、過去5年間(※2)で約20%
105 の会員数が減少しており、仙台JCも例外なく同じ問題に直面しています。仲間が減るとい
106 うことは、^{まち}仙台にアプローチできる力が減ることに繋がります。厳しい社会状況においても、
107 メンバー一人ひとりが組織の一員として会員拡大に対する高い当事者意識のもと、共に活
108 動する同志を集うため、多様性が溢れ、個人の自由度の高い現代社会の中で、私たちはJC

109 運動や組織の価値に対する共感を拡げなくてはなりません。

110 J Cしかない時代から、J Cもある時代となり、社会からJ Cを選んでもらわなければなら
111 りません。まずは、私たち会員一人ひとりが、J Cだからすべきこと、J Cだからできるこ
112 とを考え、^{まち}仙台を愛するメンバーを募り、J C運動への共感と協働を促し、J C活動を通し
113 て様々な学びの機会や自己研鑽の機会の提供から、同じ志を持ったリーダーを育成するこ
114 とで、地域により良い影響を齎す魅力ある組織へ成長する必要があります。

115 本年は、未来へ向けて地域社会から選ばれる強靱な組織を構築するために、地域の青年経
116 済人が組織の魅力に触れる機会を創出する中で、合理的かつ効果的な拡大戦略を確立し、笑
117 顔で地域を牽引するリーダーが集う組織へと進化するとともに、仙台J C独自の研修を充
118 実させることで、「個」の能力を最大限に発揮できる、笑顔で未来を切り拓く環境を構築し、
119 しあわせを共感できる仙台を実現します。

120

121 【J Cの魅力を理解し、地域発展に活かす人財の育成】

122 J C活動は楽しいでしょうか。笑顔で参加することができますか。私は、仲間と切磋
123 琢磨し、お互いに高め合いながら、何にでも挑戦することができ、自分の世界を拡げること
124 ができるJ Cが楽しいです。それは、J Cの持つ魅力を自分のものとして活かし挑戦するこ
125 とで、自分自身の世界観を大きく変化させることができているからです。

126 私は花を扱う仕事もしておりますが、それぞれ違った魅力があるからこそ美しい花の存
127 在は、J C活動にも繋がっていると考えます。私たちはつい他人と比べて自分を見失いがち
128 ですが、私たちも花と同様に、自分にしかない魅力を持った花を咲かせることが大切です。
129 思い通りにいかないことに愚痴をこぼしたり嘆いたりするのではなく、やるべきことを
130 黙々と実践していくことこそがJ C活動です。光に向かって咲く花のように、私たちも明る
131 く愛のある関わりと希望を持てる環境に向かって、自分自身の役割を全うし、存在を精一杯
132 咲かせることのできる「百花繚乱」な組織を目指していく必要があると私は考えます。

133 そして、J Cの素晴らしさは、奉仕・修練・友情の三信条によって生まれる自己変革であ
134 り、J C運動を通して様々な機会を経験した先にある自己成長にあります。J C活動の本質
135 への共感を持ち、誰もが笑顔でJ C活動に参加できる機会を提供することが必要です。私た
136 ちを取り巻く環境が変わる中、本質を変えることなく時代に即したJ A Y C E Eへアップ
137 デートし、多様なメンバーがいきいきと活躍することで、今日まで脈々と承継されてきたJ
138 Cの価値や存在意義を改めて考え、これからの組織として紡いでいくとともに、新たな魅力
139 を創出することで、より強靱な魅力ある組織へ進化する必要があります。

140 本年は、会員同士が切磋琢磨し挑戦できる組織基盤のもと、J Cの三信条を通して生まれ
141 る自己変革から、生涯を通しての知識や原動力を得るとともに、それぞれの個性を尊重し活
142 躍できる環境を構築することで、笑顔溢れる未来を切り拓く市民に共感を齎す品格を備え
143 たJ A Y C E Eとして、しあわせを共感できる仙台を実現します。

144

145 【共感を集める組織のブランディング】

146 情報化社会が進展し、SNSを中心とする様々なサービスにより、情報の送り手と受け手
147 は流動化され、誰もが情報の発信者になりうる時代を迎えています。既存の媒体に捉われず、
148 対外との連携を活用し柔軟に組織の事業やメンバーを対内外に広く効果的に発信すること
149 で、目的と成果、組織の価値を無限大に高め共感の輪を拡げていくことが可能です。

150 仙台^{まいたち}に対して、いくら価値のある事業を実施することができても、戦略的に発信しなければ、誰からも共感を得られず事業の価値が減少してしまいます。より多くの共感を生み出す
151 ためには、対象者へどのように発信するかを見極めるとともに、運動のさらなる発展に繋
152 がる広報戦略を実現することが求められています。共感の輪を拡げる広報による組織ブラン
153 ディングを行い、JCファンを創出することで、望ましいレピュテーションの獲得に繋げ、
154 組織の社会的価値を向上させることが必要です。

155 156 本年は、世界中のどこにいても情報を受け取り、発信できる時代であるからこそ、国内に
157 留まらずJCの有するスケールを活用し広範囲に発信できる広報戦略を確立し、対内外に
158 共感を齎す組織のブランディングに繋げることで、組織の価値の共有から笑顔を伝播し、し
159 あわせを共感できる仙台を実現します。

160

161 【結びに】

162 We all live with the objective of being happy. Our lives are all different and
163 yet the same.

164 (私たちは皆、幸せになるという目的を持って生きています。私たちの人生は全て異なっ
165 ています、この目的は同じです。)

166 自由を奪われた中でも、「しあわせになること」を常に考え生きた、アンネフランクの言
167 葉です。

168

169 H a p p i n e s s !

170

171 こんなことをしても仙台^{まいたち}は変わらない。こんなに一生懸命やっても、仙台^{まいたち}に響いてい
172 るのか。そんな不安があるかもしれません。しかし、周りにいる人たちの笑顔が答えであり、
173 励みではないでしょうか。私たちが理想とする仙台^{まいたち}の未来は、一人ひとりが当事者意識を持
174 って、仙台^{まいたち}の未来を明るくするために起こした行動によって創造されます。

175 私たちの運動が伝播されることで、溢れる笑顔が仙台^{まいたち}に活力を与え、能動的な市民が自ら
176 の手で、より良い仙台^{まいたち}を創造することに繋がります。

177

178 本年度の仙台JCは、愛する仙台^{まいたち}の未来のために、笑顔が溢れ、しあわせを共感できる
179 仙台^{まいたち}の創造に向かって運動を展開してまいります。

180

- 181 ※1 「仙台市 第2期SDGs未来都市計画」（2023年度～2025年度）にSDG
182 sWeekでの普及啓発の取り組みが記載されています。
- 183 ※2 日本JC2019年期首会員数、2024年期首予定会員数